

悩まなくてもだいじょうぶ

# 知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会  
代表 園部まり子

イラスト／清水直子



第25回

## 朗報！「エピペン」に保険適用

✿ 値段が高く、

持つことをためらう人も

食物アレルギーの重い症状で、命にかかわる可能性もあるアナフィラキシー症状や、アナフィラキシーショックに有効な自己注射薬「エピペン」への保険適用が実現しました。9月7日の中央社会保険医療協議会了承され、同22日から実際に保険が適用されています。

「エピペン」は誤食などが一瞬の事態に備えて持ち、病院に駆け付ける前に使うことでかけがえのない命を守る事ができる安心をもたらしています。ただ値段が1本1万2千円から1万5千円と高く、有効期間が1年ほどしかないため、子育て世代には重い負担でした。今春、「母の

会」などが行なったアンケート調査でも、回答者96人のうち67人(70%)が「高くても必要だから処方してもらおう」と回答する一方、23人(24%)が「安くならしたら処方してもらおう」と答え、値段が下がった場合に持たない本数では、回答者90人のうち66人(73%)が「2本以上」と答えました。

アンケートの結果から、値段の高さから処方してもらおうことをためらっている保護者がいること、費用が下がれば「学校や保育園、家庭でそれぞれ保管」など、安心を高めるために複数本を持ちたいと思う人が多くいることがわかりました。

そこで「母の会」など患者会は9月1日、厚生労働省に「エピペン」に保険を適用するよう求める要望書を提出しました。要望の場には、ア



そのべ・まりこ ●神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

✿ 学校、保育所などでの  
取り組みが大事に  
アレルギー疾患対策、「エピペン」の保険適用に早くから取り組んでくれている公明党の国会議員の皆さんも同席してくれました。応対していたいた厚生労働省の保険局長も、患者の声に熱心に耳を傾けてくれました。

患者にとっては大きな朗報です。

同時に今後、「エピペン」を持つ子どもたちが増えることが予想される学校や保育所などでの支援、具体的には「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」(文部科学省)、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(厚生労働省)に基づいた取り組みを確実に行なうことが、ますます大切になってくると思います。